

発掘調査の概要

藤原宮大極殿院の調査(飛鳥藤原第205次)

都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)では、藤原宮中枢部の様相解明を目的として、大極殿院の調査を継続的にこなっています。今回は東面北回廊の未発掘部分と、昨年度の調査でみつかった大極殿後方東回廊の北方に位置する内庭部にかけて、約1,500㎡の調査区を設定し、東面北回廊の柱位置の確定と内庭部の整備状況の解明を目的として、調査を実施しています。調査は2020年4月3日より開始しましたが、新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言の発出を受けて、一時中断しました。その後、緊急事態宣言の解除を受け、5月25日から調査を再開し、現在も継続しています。いつもは発掘調査の現況報告をおこなっていますが、今回は発掘現場での感染予防対策についても紹介いたします。

発掘現場では奈文研の研究員だけでなく、発掘作業員の方々も多数従事しています。今回の現場では新型コロナウイルスを想定した「新しい発掘作業スタイル」を目指して、三つの対策を実践しています。

一つ目は、日々の検温による体調管理です。研究員と作業員の全員が出勤前に検温をおこない、体調が悪い場合は無理せず休むようにしています。各自の体温を記録するために、検温表も作成しました。

二つ目は、手洗いとうがいの徹底です。発掘現場では土や泥で汚れることが多々ありますので、これまでも手洗いやうがいは適宜おこなっていました。しかしながら、この発掘現場では休憩のたびに必ず手洗いとうがいをおこなうように徹底しています。

三つ目は、「3密」を避ける対策です。発掘現場には休憩所として、プレハブ小屋があります。休憩

の際は窓を開ける等十分に換気をとるようにしています。また密集を避けるため、屋外にテントを2張り設けて、休憩時でも身体的距離を保てる環境を整えました。

発掘作業は屋外での作業です。体に負荷のかかる作業が中心ということもあり、熱中症予防の観点から、作業中は適宜マスクを外しています。そのため、身体的距離を十分に確保しながら作業をおこなうようにしています。まだまだ試行錯誤の部分もありますが、以上のような感染予防対策を実施して、発掘調査を進めています。

最後に、発掘調査の現況をお伝えします。まず、これまでの調査と同様に、戦前に大極殿院を調査した日本古文化研究所の調査範囲の検出をおこないました。日本古文化研究所の調査は、幅約3mのトレンチを南北に広く設け、回廊の柱位置にある根石を検出し、さらに東西に布掘りや壺掘りでトレンチを拡張して、根石を探していたことが確認できます。

原稿執筆時は、平城へ遷都後に営まれた水田の床土を取り除いているところで、藤原宮期の回廊や内庭部の様相があきらかになりつつあります。今回の調査で東面北回廊の発掘調査が完了し、その全容が解明されることと思います。また内庭部の様相があきらかになることで、藤原宮と前期難波宮との関係性の解明についても新たな進展が期待できます。

例年、調査終盤に現地説明会を開催して、多くの方々に発掘現場をご覧いただいております。今回は、新型コロナウイルス感染症の影響により、公開をどのような形でおこなうべきか、検討しています。何らかの方法で現地をご覧いただけるよう工夫してまいりますので、どうぞご期待ください。

(都城発掘調査部 福嶋 啓人)



発掘作業風景(北から)



日本古文化研究所の調査区検出状況(北東から)